

評価対象年度	平成19年度	施策評価シート		政策	8	施策	23
施策名	23 生涯学習社会の確立とスポーツ・文化芸術の振興			施策担当部局	教育庁, 環境生活部		
「宮城の将来ビジョン」における体系	政策名	8 生涯現役で安心して暮らせる社会の構築			評価担当部局 (作成担当課)	教育庁 生涯学習課	

施策の目的 (目標とする宮城の姿)	<p>○意欲や興味に応じて学んだり交流したりすることができる環境づくりが進んでおり, 多彩な生涯学習活動やその成果が個人の生きがいや地域づくりなどに生かされています。</p> <p>○県民の運動実施率が向上し, 地域のだれもが年齢・関心・技術に応じてスポーツに親しんでいます。競技スポーツでは, 全国や世界で活躍する選手を輩出しています。</p> <p>○郷土の伝統的な文化芸術が県民の共通財産として保存・継承や活用がなされるとともに, 子どものころから一人ひとりの創造性をはぐくむ環境づくりが進み, 県民が文化芸術を通して地域づくりや様々な交流を行っています。</p>
----------------------	---

その実現のために 行う施策の方向	<p>◇生涯学習社会の環境づくりに向けた取組の充実と学習機関や文化芸術等多様な分野における関係団体とのネットワーク化などによる県民の自主的な学習活動の支援</p> <p>◇みやぎ県民大学の実施など, 社会の要請する学習機会の確保に向けた取組や, 地域の多様な生涯学習活動を支援する指導者などの育成</p> <p>◇総合型地域スポーツクラブの育成・支援など, 生涯スポーツ社会の実現に向けた環境づくりの推進</p> <p>◇競技スポーツにおける生徒から学生, 社会人までの一貫指導体制の確立や指導者育成策の拡充, 競技力向上に向けた環境の充実</p> <p>◇県民が文化芸術に触れる機会の充実などによる文化芸術活動の振興</p> <p>◇地域文化の継承・振興に向けた取組の支援と文化財の保存・活用の推進</p> <p>◇県民の文化芸術活動を生かした地域づくりや交流の推進</p> <p>◇宮城県図書館・美術館・東北歴史博物館等の拠点の充実と関係機関とのネットワーク構築</p>
---------------------	---

事業費 (単位:千円)	年度	平成19年度 (決算(見込)額)	平成20年度 (決算(見込)額)	平成21年度 (決算(見込)額)
	県事業費	304,959	—	—

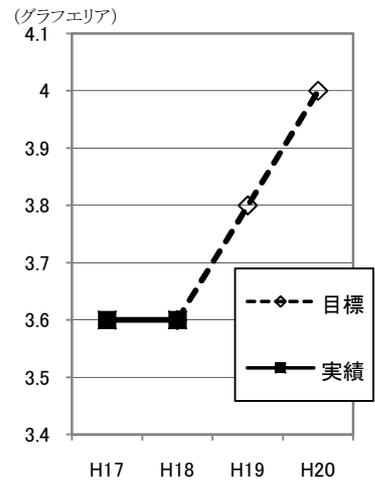
施策に関する社会経済情勢等の状況 (全国・本県の状況, 法令・条例・計画等策定の状況等について)				
<p>・経済の発展に加え, 科学技術の高度化, 情報化, 少子高齢化などの進行を背景として, 人々は物質的な豊かさに加え, 精神的な面で豊かさを求め, 生涯を通じて健康で生きがいのある人生を過ごし, 自己実現を図ることを求めている。</p> <p>・このような中, 自己の充実・啓発や生活の向上のため, 生涯にわたって, あらゆる機会・場所において学習することができ, また, その成果を生かすことのできる社会—生涯学習社会—の実現が強く求められている。</p> <p>また, 生涯にわたって, 年齢・関心・技術に応じ, 様々な形でスポーツに親しみ充実したスポーツライフを送れる県民総スポーツ社会の実現が求められている。</p> <p>さらに, 優れた文化芸術を鑑賞したり, 自ら文化活動を行ったりするなど, 今後ますます文化芸術活動に対するニーズが高まると考えられる。</p>				

県民意識調査結果							
調査対象年度 (調査名称)		平成19年度 (平成20年県民意識調査)		平成20年度 (平成21年県民意識調査)		平成21年度 (平成22年県民意識調査)	
この施策 に対する 重視度	重 要	13.8%	51.7%				
	やや重要	37.9%					
	あまり重要ではない		22.2%				
	重要ではない		4.7%				
	わからない		21.4%				
調査回答者数		1,701					
この施策 に対する 満足度	満 足	4.1%	32.8%				
	やや満足	28.7%					
	やや不満		18.8%				
	不 満		5.3%				
	わからない		43.1%				
調査回答者数		1,686					
調査結果について		<p>・重視度については, 重視の割合が50%を超えていることから, この施策に対する県民の一定の期待が伺える。</p> <p>・満足度については, 満足の割合が32.8%となっており, この割合を向上させていくとともに, 「わからない」と回答した割合が40%以上もあることから, 事業の周知をこれまで以上に進める必要があると考える。</p> <p>・優先すべき項目としては, 「生涯を通じてスポーツに親しめる環境づくり」が男女, 年代を問わず22.1%と高い割合を占めていることから, 今後も引き続き対応する事業に取り組んでいく必要がある。</p>					

目標指標等の状況

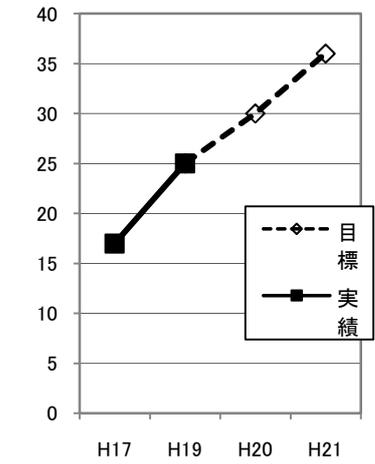
※目標指標等の達成度 A:「目標値を達成している」
 B:「目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と同方向に推移している、又は現状維持している」
 C:「目標値を達成しておらず、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と逆方向に推移している」
 N:「現状値が把握できず、判定できない」

目標指標等名(下段:説明)	評価対象年度	初期値	H19	H20	H21
1 公立図書館における県民一人当たりの図書資料貸出数(単位:冊) 県民1人が県図書館をはじめとする公立図書館で一年間に借りる図書資料数(出典:県内読書施設の現状調査)	指標測定年度	H17	H18	H19	H20
	目標値(a)	-	3.6	3.8	4.0
	実績値(b)	3.6	3.6	-	-
	達成(進捗)率(b)/(a)	-	100.0%	-	-
	達成度	-	A	-	-



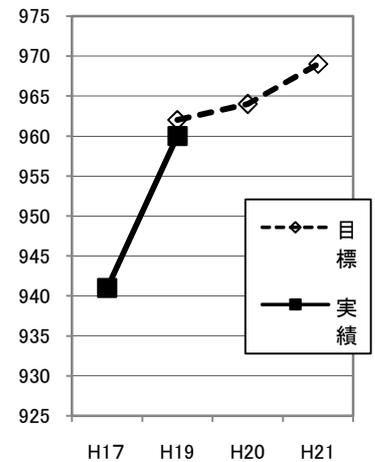
目標値の設定根拠	近年の県民一人当たりの公立図書館における図書資料貸出数に関する実績や傾向を踏まえた上で、各年度毎0.2冊の増加を見込み設定した。(平成21年度の目標値は4.2冊と設定している)
実績値の分析	3年目の目標達成には極めて厳しい状況にあるが、生涯学習の中核的施設として、引き続き県民のニーズに応えるべく、図書資料や学習情報を提供していくとともに、市町村図書館等への支援・協力を実施していく。
全国平均値や近隣他県等との比較	該当なし

目標指標等名(下段:説明)	評価対象年度	初期値	H19	H20	H21
2 総合型地域スポーツクラブの創設数(単位:クラブ) 県内全市町村に1箇所以上の創設を目標としている。	指標測定年度	H17	H19	H20	H21
	目標値(a)	-	25	30	36
	実績値(b)	17	25	-	-
	達成(進捗)率(b)/(a)	-	100%	-	-
	達成度	-	A	-	-



目標値の設定根拠	平成14年度に策定した「宮城県スポーツ振興基本計画」で目標に掲げている「県内全市町村に1カ所以上の設置」を目標値とした。(本計画では合併前の旧市町村に1箇所以上の創設を目標に掲げたが、その後、市町村の合併があったことから、当面、現市町村数に目標値を修正した。この目標値が達成された段階で旧市町村毎の設置に努めることとする。)
実績値の分析	市町村等の巡回指導を積極的に行った結果、平成19年度から創設数も上昇傾向になっている。今後とも県及び広域スポーツセンターが協力して事業を推進する。
全国平均値や近隣他県等との比較	平成19年7月1日現在、全国1,827市町村中631市町村で創設済み(34.5%:文部科学省調査) 宮城県:36市町村中12市町村創設済み(33.3%)

目標指標等名(下段:説明)	評価対象年度	初期値	H19	H20	H21
3 みやぎ県民文化創造の祭典参加者数(うち出品者・出演者等の数)(単位:千人) みやぎ県民文化創造の祭典の主催事業・共催事業・協賛事業に係る総参加者数(うち出品者・出演者等の数)	指標測定年度	H17	H19	H20	H21
	目標値(a)	-	962(37)	964(38)	969(39)
	実績値(b)	941(38)	960(35)	-	-
	達成(進捗)率(b)/(a)	-	99.8%	-	-
	達成度	-	B	-	-



目標値の設定根拠	主催事業は、平成22年度には小・中学生のワークショップ等の体験率を2.04%とすることを目標に参加者数の目標値を計算した。共催事業は会場となる県施設の収容能力を勘案して、また、協賛事業は過去の推移を勘案して計算した結果、総参加者数の目標値は表のとおりとなった。出品者・出演者等数については、参加者数の伸びを考慮して設定した。
実績値の分析	平成19年度参加者数、出品者・出演者等数とも平成19年度目標値には達しなかったが、参加者数の達成率は99.8%、出品者・出演者等数の達成率は91.9%とほぼ目標を達成したと考える。
全国平均値や近隣他県等との比較	該当なし。

施策評価(総括)		
施策の成果(進捗状況)	評価	評価の理由
・目標指標等、県民意識調査結果、社会経済情勢、事業の実績及び成果等から見て、施策に期待される成果を発現させることができたか(「目標とする宮城の姿」に近づいているか)。	概ね順調	・三つの目標指標の現状は、目標を達成しているもの、ほぼ目標値に近似しているもの、現状維持のものと、総じて目指すべき方向に推移している。 ・県民意識調査からは、施策に対する満足度の割合や事業の周知度が低いことが伺われ、これまで以上の事業の推進と周知が必要と考える。 ・社会経済情勢からは、多様なニーズに対応した学習機会の提供、スポーツに親しめる環境づくり、文化芸術活動に対するニーズは高まっていくと考える。 ・各事業の実績からは、いずれも一定の成果が得られている。 以上のことから、本施策の進捗状況は概ね順調に進んでいると判断する。

施策の課題等と対応方針		
①事業構成について	事業構成の方向性	方向性の理由
・施策評価の結果、県民意識調査結果、社会経済情勢及び事業の分析結果(必要性・有効性・効率性)から見て、施策の目的を達成するために必要な事業が設定されているか。事業構成を見直す必要はないか。	現在のまま継続	施策の進捗状況は概ね順調で、今後も高齢社会の進展など取り巻く社会情勢を踏まれば、生涯学習活動やスポーツ、文化芸術活動などへの住民の多様なニーズに応えることのできる環境整備により努めていく必要がある。 ・特に、県民意識調査結果からは、「スポーツに親しめる環境づくり」の分野において優先すべきとする割合が高いので、今後も引き続き対応する事業に取り組んでいく必要がある。
②施策を推進する上での課題等 ※施策が直面する課題や改善が必要な事項等(①の事業構成に関する事項を除く。)		
・社会の変化により、本施策に対する必要性・重要性はますます高まっていくが、限られた予算でいかに効果的に県民のニーズに対応し、サービス向上を図るか、また、各分野において、いかに各年代のニーズに対応できるようなサービスを提供するかが課題と考える。		
③次年度の対応方針 ※①及び②への対応方針		
・県民意識調査結果からは、施策への重視の割合が50%を超え、施策に対する県民の一定の期待が伺えるが、満足度においては、満足の割合が32.8%と低く、また、「わからない」と回答した割合が40%以上もあることなどから、事業の一層の推進と周知に努める必要があると考える。		

施策を構成する事業の状況 (事業分析シートより)										
事業の状況							事業の分析結果			次年度の方向性
番号	名称 (担当部局・課室名)	県事業費 (決算見込、 単位:千円)	活動の状況 (活動指標)		成果の状況 (成果指標)		①必要性	②有効性	③効率性	
1	生涯学習関係情報提供システム運営事業 教育庁・生涯学習課	2,645	登録情報件数	5,782件	アクセス件数	15,536件	概ね妥当	ある程度成果があった	効率的	維持
2	図書館市町村支援費 教育庁・生涯学習課	53,619	県図書館から県内市町村図書館等に対する年間協力貸出数	23,120冊	県内公立図書館における県民1人当たり図書資料貸出数	3.6冊	概ね妥当	ある程度成果があった	効率的	維持
3	みやぎ県民大学推進事業 教育庁・生涯学習課	5,178	みやぎ県民大学講座数	54講座	みやぎ県民大学受講者数	2,950人	妥当	成果があった	効率的	維持
4	広域スポーツセンター事業 教育庁・スポーツ健康課	19,992	専門指導員等派遣回数	48回	総合型地域スポーツクラブ創設数	25クラブ	妥当	成果があった	概ね効率的	維持
5	スポーツ選手強化対策事業 教育庁・スポーツ健康課	173,807	各競技団体毎に行う合宿	415回	国民体育大会総合成績	10位	妥当	成果があった	効率的	維持
6	みやぎの文化力育成支援事業 教育庁・生涯学習課	8,709	芸術鑑賞機会開催回数	28回	芸術鑑賞会参加人数	44,434人	概ね妥当	ある程度成果があった	効率的	維持
7	図書館貴重資料保存修復事業 教育庁・生涯学習課	15,744	修復等を実施した貴重資料数(点/年)及び移動展示会開催数(回/年)	17(4点・13回)	修復等を実施した貴重資料数(累計;点)及び移動展示会開催数(回/年)	326点・13回	概ね妥当	ある程度成果があった	効率的	維持
8	みやぎ県民文化創造の祭典(芸術銀河)開催事業 環境生活部・生活・文化課	19,323	主催事業会場数	97会場	みやぎ県民文化創造の祭典参加者数(うち出品者・出演者等の数)	960千人(35千人)	概ね妥当	ある程度成果があった	効率的	維持
9	美術館教育普及事業 教育庁・生涯学習課	5,942	教育普及活動事業数	13回	教育普及事業参加者数	29,589人	妥当	成果があった	概ね効率的	拡充
事業費合計		304,959								